

# 令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

**なぜ、群馬県には古墳と埴輪がたくさんあるのか？**

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2組 6番

氏名 大澤 歩夢

## <はじめに>

古代の群馬県では縄文時代の間は争いがなく、平和でしたが、弥生時代になってからは、朝鮮半島の方から来た渡来人により稲作が伝わっていきました。その後、ムラとムラの間で争いが起こり、やがて、ムラの指導者がムラを支配する「豪族」となっていきました。古墳時代になると、豪族が自分のためにと大きな墓(古墳)を作るようになっていきました。

その頃に、大きく栄えていたのが「大和政権」です。

※大和政権とは…3世紀から始まるとされる古墳時代に「王」(きみ)や「大王」(おおきみ)などと呼称された倭国の首長を中心として、いくつかの有力氏族が連合して成立した政治権力、政治組織のことをいいます。

その「古墳」と「古墳」から出土される「埴輪」がなぜ、群馬県は多いのかをこれから探っていきたいと思います。

そこで、僕は古墳を見学しに行く前に古墳や埴輪について勉強するために本を何冊か読んでみることにしました。

## <研究の動機>

群馬県はその昔、古墳大国でした。古墳は弥生時代と奈良時代の間、「古墳時代」と「飛鳥時代」の約400年の間に作られたその土地その土地の有力者のお墓です。現在群馬県内には、約2000基の古墳が残されていますが、失われてしまったものを数えると13249基以上の古墳があったそうです。

全国においても、約16万基(平成13年文化庁調べ)も残っていて、未だに毎年新しく発見されているそうです。

近畿地方では、埴輪は王様などの大型の古墳に乗せることが多いのですが、群馬県では小さい古墳でもほぼ埴輪が立ててあって埴輪の乗った古墳が圧倒的に多いのが群馬県の特徴だそうです。

群馬古墳は「全部のせ」スタイルで大きな古墳も多いことから埴輪がたくさん必要でした。今の藤岡市や太田市には埴輪作りのプロ集団の村があって、大量生産していたことを本で知り、そこまでこだわった本格的な埴輪を身近な市で昔、作られていたことを知りものすごく驚いたし、また、実物を早く見てみたいなと思いました。

そこで僕は、県内にたくさんの古墳がある中で東国文化副読本に載っていた「保渡田古墳群」へ行くことに決めました。理由は1つ、本の中で何体もの埴輪が連なって並んでいたのが、異様な光景というか、物珍しく思え、印象に残ったからです。

<研究の方法①>

僕が行った保渡田古墳群には3つの古墳がありました。  
最初に作られたのが5世紀後半の井出二子山古墳で次に少し遅れて保渡田八幡塚古墳が続き、5世紀末ないし6世紀始めに最後の保渡田薬師塚古墳です。  
その中の「八幡塚古墳」と「かみつけの里博物館」に実際に行くことにしました。

## 保渡田八幡塚古墳(高崎市)

- 墳丘長 96 m
- 主な埋葬施設：舟形石棺
- 円筒埴輪の数：6000本

保渡田八幡塚古墳は長さが96mで3段になっており、斜面が葺石でおおわれています。この葺石の密度が高くなるように葺かれています。



この写真のように、各斜面の縁にはなんと6000本もの「円筒埴輪」が直線上に並べられています。

※円筒埴輪…もともとは、吉備(岡山県)の大型の器台が変化したものといわれています。また墳丘の土留めであるとか、古墳の荘厳さを表しているのでは、ともいわれているそうです。

古墳自体も二重の堀に、囲われ、内堀の中には、4つの円形の島から作られています。後円部では死者が「舟形石棺」に葬られていましたが、4つの島はこの後円部を囲むように作られていてここで祭祀が行われていたと推定されているそうです。

また円筒埴輪で結界を張っていたと思われませんが、6000本もの埴輪を作るとは、余程力のあった豪族でなくてはできません。

保渡田八幡塚古墳には埴輪がもっとたくさん置かれている面白い場所がありました。

ここが、僕が本で見て行くきっかけになった所になります。

人物や動物の埴輪が一定の配置で54体も並べられ、これは外から古墳を見る人を意識し、この場所に一定のストーリー性を考えて造形されたといわれているそうです。





上の図にも書いてあるように、連なって並ぶ埴輪にも1つ1つ意味があることがよくわかりました。

かみつけの里博物館では、学芸員さんにお話を聞くことができました。そこで、「なぜ、群馬県には古墳と埴輪がたくさんあるのですか？」と質問をしました。

学芸員さんによると群馬県は、大和政権とのつながりが非常に大きく大和政権から見ると、軽視してはいけないうるの力を持っていた地域だったそうです。そのため、群馬県と友好関係を結んでおくことで、東北地方などを「大和政権」が攻める時には有利になることができ、その攻める時の移動手段として朝鮮半島のほうから、馬を育てる技術を持った人たちを連れてきて馬を育てて使用しました。自らも馬を育てる技術を学んだために今の群馬県には馬が多いのだそうです。

この馬の登場は、人々の暮らしを激変させました。移動が速く、荷物も運べて、農作業の貴重な労働力になりました。

このハイテク技術を、広めるため、地域を挙げて馬の生産に力を入れるようになり、日本で有数の馬の産地にもなったとのことでした。

この話を聞いて、僕が求めていた答えを知ることができました。

## 〈研究方法②〉

高崎方面にいく機会があり、短い時間でしたが気になっていた綿貫観音山古墳の出土品が飾られている「群馬県立歴史博物館」にも行くことができました。残念ながら、綿貫観音山古墳は見ることはできませんでした。次回、時間ができたら行ってみたいと思います。

綿貫観音山古墳は副葬品が非常に充実していて、埴輪は、埋葬された豪族を守り、立派に見せる飾りたてのために置かれているそうです。膨大な数の円筒埴輪片が出土していますが、全体形状が把握できる普通円筒埴輪は10点のみでした。歴史博物館に展示されているものには、国宝ともうすぐ国宝になるものがありました。国宝は、「沖ノ島祭祀遺跡」から金銅製心葉形杏葉、「藤ノ木古墳」から金銅製棘葉形杏葉がありました。





当時、観音山古墳の埴輪を見た人たちは、一目で偉大な王の世界を感じ取ることができたことでしょう。

これらは、群馬県内から出土されたものではないのですが、どちらもそのころに使われそうなものだと僕は感じました。

### 〈研究の方法③〉

そして最後に、僕が毎日使っている通学路をいつものように自転車をこいでいるときに見つけたのが、「原之城遺跡」(げんのじょういせき)という遺跡の看板です。改めて、家に帰ってから見学に行きました。

原之城遺跡は群馬県伊勢崎市豊城町で昭和 56 年、大正用水東部土地改良事業に伴う事前の発掘調査で発見され、昭和 58 年から 61 年までの発掘調査で遺跡の規模や性格があきらかになりました。

古墳時代の首長居館(豪族居館)と呼ばれた遺跡のようです。居館は東西約 110m、南北約 170m のほぼ長方形で幅約 20m の濠がめぐらされ全体の面積は 30,000 m<sup>2</sup> を超え、全国で調査された同様の遺跡では最大級のものだそうです。しかし発掘調査で様相がわかっているのは全体の 1/3 程度で北半分の区画には、鉤形にまがった溝が掘られており、その東西で様子は異なります。東側には、大型の竪穴建物や比較的規模の大きい掘立柱建物が作られています。

一方、西側では規模の小さい掘立柱建物が作られこちらは倉庫群と考えられています。

今は、もう形は残っていませんが、全体の面積が 30,000 m<sup>2</sup> を超えているので、とても大きな遺跡であったことがわかります。このようなサイズの遺跡を作れるということは、かなり大きな権力を持った豪族がいたということを想像することができました。身近な場所にこうした遺跡があるとは思わなかったのど

てもびっくりしました。



### <まとめ>

テーマである「なぜ、群馬県には古墳と埴輪がたくさんあるのか？」の答えとしては、学芸員さんがいうように群馬県は大和政権とのつながりが非常に大きく、この2つの地域の友好関係を結ぶためにと古墳をたくさん作る権利を与えられ、古墳と埴輪が多くなっていったということがいろんな本や見学のおかげでよくわかりました。

群馬県には、「原之城遺跡」のほかにも「岩宿遺跡」や「権現山遺跡」といった遺跡がたくさんあり、古墳は見に行ったら「保渡田八幡塚古墳」以外にも「大室古墳群」や「丸塚山古墳」、「一ノ塚古墳」、「綿貫観音山古墳」など上記に書くことができないほどたくさん古墳が今もなお残っていてこの数の遺跡や古墳があるということから、やはり群馬県は大きな権力と勢力を持っていたのだと考えることができました。



<おまけ>



保渡田八幡塚古墳にて。

<参考文献>

- ・上毛新聞社 右島和夫 群馬の古墳物語<下巻>2018年11月4日 P14、P24
- ・群馬県 右島和夫 若狭徹 HANI-本 イチ推しはにわ P6-P7
- ・まりこふんの古墳ブック 2014年5月5日 古墳のつくりから抜粋
- ・いにしへの鼓動を感じる博物館 群馬県立博物館  
<http://grekisi.pref.gunma.jp/kikaku.html> 調べた日 2020年8月13日
- ・原之城遺跡 伊勢崎市教育委員会 文化財保護課発行パンフレット
  
- ・保渡田八幡塚古墳 7月24日見学
- ・かみつけの里博物館 7月24日見学
- ・群馬県立歴史博物館 8月13日見学
- ・原之城遺跡 8月18日見学